

写真で見えるちば真裕活動記録2024



2月9日 宿泊税に係る要請に同席



4月11、12日 留萌管内視察



7月23日 江差町視察



3月16日 動物愛護センター「あいにく」開所式



6月6日 恵庭市を同僚議員と視察



7月16～19日 総務委員会の視察で宮崎・福岡・高知県を訪問



左から、8月9日 ソン副首相兼外相と、8月10日 ベトナムフェスティバル、9月11日 ベトナム若手国会議員と意見交換、11月20日 ヒエウ駐日大使表敬

..... ベトナムとの友好親善に奔走!



Pick Up!

奥尻・熊本・福島を視察

(R6.7月、11月)

奥尻島は、1993年の北海道南西沖地震による津波、熊本は、わずか28時間以内に震度7が2回発生した2016年の熊本地震、福島は2011年の東日本大震災に伴う原発事故で大きな被害を受けました。実際に現地に足を運び、復興状況や再発防止対策などを視察し、北海道でも高い確率で発生が想定される「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震」や「有珠山噴火」など、北海道の防災・減災につながるよう、議会質問にも反映させています。



Pick Up!

アメリカ・フロリダ視察

(R6.8月)

米国内外から約6,400万人、米国外から約600万人の観光客が訪れる、全米一の観光保養都市・オーランド市及びフォートローダーデール市にて、宿泊税について知見を深めるとともに、国際会議などのいわゆるMICE誘致のための施策や施設を視察しました。年間約520～540億円にのぼる宿泊税収を効果的に使った、オーバーツーリズムを発生させず、住民にも恩恵が及ぶ仕組みなど、北海道の「これから」への大きな示唆を得ました。



北海道議会議員 札幌市中央区

まさひろ

ちば真裕

道政だより 第2号

住んでよし!
旅してよし!の北海道に。

ごあいさつ

皆さん、こんにちは。
日頃より私の活動に対し、ご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

令和5年4月に、皆さんからのお力添えをいただき、北海道議会議員として仕事をさせていただいてはや2年。任期も折り返しを迎えました。

2年目は、道議会において、本会議場での一般質問や各種委員会質問など、1年目を上回る19回質問に立ったほか、道議会自民党会派で政策を担当する政策審議委員会委員として、「宿泊税」をはじめとする道政の重要課題について、道庁各部と文字どおり侃々諤々、政策議論を重ねてきました。

また、道内外各地や海外を訪問し、北海道の「これから」につながる課題について、見聞を広めてまいりました。

今回の道政だよりは、そうした私の活動の一端を皆さんにお伝えするものです。

これからも「住んでよし!旅してよし!の北海道」実現のため、誠心誠意取り組む決意です。

今後とも、皆さんのご理解とお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

北海道議会議員 千葉 真裕

ちば真裕のプロフィール 昭和58年3月10日、札幌市生まれ。幌西小学校、伏見中学校、札幌南高校、北海道大学法学部卒業、同法科大学院修了。平成23年より国土交通省北海道運輸局に勤務(交通・観光行政に従事)。令和5年4月、北海道議会議員初当選。道議会総務常任委員、同食と観光調査特別委員、道議会自民党・道民会議政策審議委員。

ちば真裕
事務所

〒064-0916 札幌市中央区南16条西14丁目2-14 ウェルビル201
TEL 011-562-2132 FAX 011-563-5181
公式ウェブサイト <https://www.chiba-masahiro.jp>
フェイスブック <https://www.facebook.com/chiba.masahiro.hokkaido>



Pick Up!

北海道水産業・漁村振興条例改正

(R6.10月)

北海道の豊かな海づくり推進に向けた関係条例の改正に際し、会派内プロジェクトチームの一員として、改正条例案文を起草しました。行政側が提案し制定された条例を議員提案で改正するという、道政上例がないものでしたが、起草した条例案文は修正されることなく、全会一致での条例改正となりました。



一般質問

コメの品薄状態について

(令和6年9月19日)

【質問】 コロナ禍後の需要回復、南海トラフ地震情報の発表による家庭のコメ備蓄の進展などによりコメの品薄状態が発生した。専門家からは昨夏の高温で売り物にならないコメが相当数発生したとも聞く。コメの在庫量や流通量の情報収集・発信について、今後どのように対応していくのか伺う。
鈴木知事 SNSなどを通じて必要な量の購入を呼びかけ、農業団体などに早期出荷や円滑な流通の確保を申し入れたほか、専用サイトを立ち上げ、全国の在庫量や取引価格の動向などを情報発信している。今後も必要な情報収集と発信に努める。



デジタル社会における障がいのある方々への配慮について

(令和6年9月19日)

【質問】 デジタル化やIoTの進展により、例えば、自販機の全面タッチパネル化など、一般的には利便性が高まると言われている一方、視覚に障がいのある方にとっては、かえって使えなくなったり、不便になったという声も聞く。障がいのあるなしにかかわらず、等しくデジタル社会の恩恵を被ることができるようにすることが重要。道の認識及び今後の取り組みについて、伺う。
保健福祉部長 道では、平成30年に、意思疎通支援条例を制定し、障がいのある方の意思疎通の支援に関する施策の総合的な推進に努めているが、デジタル化に伴い、障がいのある方が直面している課題についても、合理的な配慮が必要と認識。障がい者団体へのヒアリングや、「北海道福祉のまちづくり推進連絡協議会」を通じて合理的な配慮を求めるなどして、障がいのある方がない方と実質的に同等の情報を得られるよう、情報のバリアフリー化の促進を図っていく。

野菜の物流コスト低減について

(令和7年3月3日)

【質問】 全国の消費者物価指数では、キャベツ、白菜などの生鮮野菜の上昇幅が顕著になっている。物流コストに対する補助等により価格上昇が緩やかになれば、その効果は全道民に広く及ぶのではないか。直接給付とは異なるこうしたアプローチの可能性について、道の所見を伺う。
経済部長 道では過去に本州からの運賃相当の一部を補助する事業を実施したが、全国との価格差が縮小し、平成17年度で終了した。当時補助対象とした野菜について、平成18年からの5年間と直近5年間における本道と全国の小売価格を比較したところ、当時の傾向は変わっていない。道では、野菜の価格は流通コストのほか、主産地の違いや時期、需給状況などが影響していると考えており、引き続き高騰する野菜の価格形成について研究していく。

欧米との向き合い方について

(令和7年3月3日)



【質問】 欧米は次世代半導体・GX分野をはじめ、食と観光の分野などでも今後大きな発展が期待できる市場。道は現在、ロシア、中国、韓国、シンガポールに事務所を設けているが、欧米との関係強化を図るには、欧米にもこうした「橋頭堡・出城」を設けて市場開拓や人的ネットワークの構築を行うことが極めて重要。派遣目的を明確にした上で、派遣形態や駐在職員のタスク、進出場所の選定等の検討を開始すべきと考えるが、道の見解を伺う。
グローバル戦略推進監 欧米では、ジェトロなどの関係機関や道内企業、ビジネス協力員等の協力を得ながら、交流拡大に向けた環境づくりに取り組んでいる。道として、道内企業の進出の動向も踏まえ、欧米との経済交流の拡大を図っていく。

その他の質問項目: 農業教育の充実／交通政策／ベトナムとの持続的な関係維持・発展／縄文世界遺産の活用のあり方／北海道豊かな海づくり大会／観光人材の育成に向けた教育／非常時における生活用水／障がいのある方々の交通利便性向上／北海道景観計画等の見直し／行動科学の手法を用いた施策展開／国語教育／観光振興

活発な議論で 道政課題に斬り込む！

私、ちば真裕はこの1年も、本会議や所属する各委員会において幾度も質問に立ち、鈴木直道知事をはじめ道理事者と、幅広い分野の道政課題について活発な議論を展開しました。「住んでよし！旅してよし！の北海道」を実現するために、誠心誠意取り組んでまいります。

note

質疑内容の詳細はコチラから読みいただけます▶



note

https://note.com/chiba_masahiro/

食と観光調査特別委員会

MICE誘致について

(令和6年9月9日)

令和6年8月の米・フロリダ州のMICE施設等の視察を踏まえ、道のMICE誘致に向けた取り組みなどについて質問しました。MICEの世界市場規模は、2023年で約8,500億～1兆ドルと推計され、アドベンチャートラベル(約3,500億～5,000億ドル)と比べても、いかに大きな市場規模が分かります。経済活動の裾野が広く、滞在期間も比較的長いMICEは、経済効果はもちろん、本道観光の課題である季節偏在の解消にも資するものです。MICE誘致のため、世界水準を意識した人材の育成・確保、MICE参加者への「消費の場」の提供など「面的整備」について、道が積極的な役割を果たすよう強く指摘しました。

道が考える将来の北海道観光のあり方について

(令和6年10月3日)



道は「世界が評価する観光立国・北海道の実現」を標榜していますが、その具体的内容についてただすとともに、「世界が評価する」ことによって北海道がどのように裨益するかにかかる道の想定する因果関係について、定量的データや分析の裏付けが必要であり、「推計統計学」の手法等を活用すべきであると指摘しました。さらに、異例の「再質問」のかたちで、道が目標とする「世界トップクラスの観光地」とは何か、主体性をもって掘り下げる必要があるとただし、観光振興監から「大変厳しいご指摘をいただいたと受け止めている」との答弁がありました。

その他の質問項目: 観光バスの待機場・駐車場の不足／観光業における人材確保／漫画・アニメ・ゲームを契機とした誘客施策／対欧米豪戦略・施策

総務委員会

新型コロナ臨時交付金等の返還事案について

(令和6年11月6日)

令和元年度～4年度に道が国から受けた新型コロナ臨時交付金・地方創生推進交付金のうち、手続きの過誤等により、約16.2億円を国に返還するという事案の発生を受けて、発生原因や道財政への影響、再発防止策などをただすとともに、人事異動によって担当者が頻繁に交代する中で、たとえ担当者が誤った事務処理をしたとしても、組織としてその誤りを発見し、速やかに修正する体制を早急に構築し、再びこうした事案を発生させないよう強く指摘しました。



その他の質問項目: 赤れんが庁舎のリニューアル／SNS型投資・ロマンス詐欺／白タク・白バス抑止、撲滅に向けた取り組み／北海道公立大学法人札幌医科大学第4期中期目標(素案)／庁舎のセキュリティー確保

予算特別委員会

第2回定例道議会では、第1分科会(令和6年6月28日、7月1日)で質問に立ちました。子ども施策や医療体制、孤独・孤立対策、北海道新幹線札幌延伸や地域交通の在り方などの交通政策といった重要課題について、道の積極的な取り組みを促しました。

質問項目: 交通政策(北海道新幹線札幌延伸に係る新たな枠組み、地域における移動手段の確保、JR北海道の黄色線区における利用促進)、子ども施策(児童相談所の体制強化、里親制度、児童扶養手当に係る不適切な事務処理)、医療体制(医療DXの推進)、孤独・孤立対策

決算特別委員会



決算特別委員会で令和6年11月11、12の両日、質問に臨みました。喫緊の課題である道路施設の老朽化対策、本道の豊かな海づくりについてただしたほか、人手不足に苦しむ企業の労働力確保、脱炭素社会の実現に向けた取り組みなどの強化を求めました。

質問項目: 既存住宅のリフォーム促進等、建設産業における人材確保対策、道路施設の老朽化対策、本道の豊かな海づくり、労働政策(人材の育成・確保)、ゼロカーボン北海道関連施策